



自分で選んだ材料を、自らの手で、日々の道具に仕立てていく

自らの手で作ることで
物の本当の価値が見えてくる

“base works”では、靴作りの他にもいろいろな革の道具を作る事ができる。バッグや財布、カードケースなどその種類は実に多様。オーダーメイドで一からデザインすることもできるが、入門編としては、財布やキーケースなどの小さいもので、すでに型紙のあるものが手を出しやすい。

私はキーケースを作ることにした。時間の都合もあって、すでに切り抜かれた革を使う。この革選びも、いろいろな組み合わせがあつて悩むところだ。まずは小端止めといつて、革の裁断面を保護するために植物タンニンを塗り、しつかりとこするよう布で拭く。そして、ボタンなどの素材をハンマーで打ち込めばできあがりだ。

手軽で作りがやすく、入り口としてはぴったりだ。しかし正直、もっと作りたい。横の席では仁淀川町から来たという女性2人が靴を作っている。そして、「今日はちょっと浮気して」と言いながら、小さなシヨルダールバッグを作る算段までしている。紐靴を作るなら6日ほど掛かるといふが、手仕事でじっくりと作り上げた靴ならば、使い捨てでなく大切に使用するという気持ちになるだろう。

「自分で物を作れば、売られている物の本当の価値が分かるようになります。欲しい物を買うだけでなく、暮らし

の中にもものづくりを取り入れれば、人生はもっと豊かになるのではないのでしょうか」

ものづくりを通して
伝えたいこと

「この教室で教えているのは、靴をはじめとした革製品の作り方だけです。でも、この教室で『物を作る』という時間が、

その人たちにとってそれ以上に価値のあるものになっていければいいなと願っています」

時間をかけて作ってきた物が、やっと完成した時の幸福感。ものづくりの楽しさ。新しい価値観に触れるということ。暮らしを見つめ直すきっかけになったという人もいられるかもしれない。

「物を作る時間の中で感じることは人それぞれですが、まずは手を動かして、自由に作ることを楽しんでもらいたいですね」

勝見さんは、山間にたたずむ工房で、人々にもものづくりを教えるべく、ものづくりは楽しい。そして、自分で作った道具を、日々愛着を持って使い続けていく暮らしは、とても豊かなものだと感じた。

この仕事をしていてうれしかったこ

との一つを

教えてくれた。

「実家が小売店

をやっているという

女性が教室で靴作りをする

の中で、物を作るっていいです

すねって言うてくれたんです。私は実

家が物を扱って売るといふ仕事をして

いるのに、なぜこの魅力に気付かなか

ったんだらう、ものづくりっていいで

すねって」

ものづくりの魅力を伝えることが、

人々の暮らしを少しずつ良い方向に変

えてゆく。

取材後、結局もう一つキーケースを

作った。手になじむ革の感触を楽しみ

ながら帰路につく。一つは妻に贈ろう。



①妻の麻子さん(右)も友彦さんとともに教室に立つ ②縫い糸も革もさまざまな色がある ③自分の足にぴったりフィットするように 採寸は念入りに ④木型を削り出す ⑤ちくちくと一針縫うごとに靴への愛情が湧いてくる ⑥山間にたたずむbase works